

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172000545		
法人名	有限会社ケアコスモス		
事業所名	グループホームほのぼの2号館		
所在地	岐阜県中津川市福岡3441-1		
自己評価作成日	令和4年10月27日	評価結果市町村受理日	令和5年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2172000545-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造平屋1階建ての温かみのある空間で、職員全員が基本理念(・隣に座る・その人を知る・ゆっくりと穏やかに)に沿った介護を心掛けています。ホームの周りは、木々など豊かな自然に囲まれており、静かな環境の中にあります。昔ながらの郷土料理や旬の食材を取り入れた野菜中心の食事が自慢です。週に1度のドライブや季節毎の行事(花見、紅葉見学など)を楽しんでおります。重度化に伴い、医療連携の見直しをし、自然な看取りの体制も整ってきています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で地域の行事が中止となり、住民との交流も難しい状況である。元代表が地元出身で地域の中に人脈があった事から、現在の代表と管理者が引き継ぐ事となった。人との関りは途切れることなく、地域に根付いた運営がなされている。防災訓練については、消防署から具体的避難方法の助言を受けながら、月2回の自主避難訓練を実施している。また、利用者の病歴や服薬情報を詰めた「命のボトル」を設置したり、防災頭巾の用意をしている。周辺の地形が土砂災害の危険があるとのことで、法人が自費で整備をするなど、災害対策の意識が高い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人を知るという事を大切に、地域と共という地域密着型の基本理念を掲げて、その理念に添った実践を心掛けている。理念の掲示することで再確認している。	職員をはじめ、利用者や訪問者の誰もが目にする事ができるよう、ホールに理念を掲げている。同法人が運営していた1号館職員の実践ケアを文書化して理念とし、職員間で共有、継続している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域清掃、事業所を知ってもらう取り組みが出来ている。また、地域交流会(五平餅会等)を開催し地域の方に訪問してもらうなど交流が出来ていたが、現在コロナにて五平餅会は保留中	現在、地域行事での交流は自粛している。元代表が地元出身であり、地域との関係もそのまま引き継がれている。食材は地元スーパーで購入したり、人手が足りない時には、地域の人の協力を得るなど、日常的に交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や施設長やスタッフが地域住民であるため、日頃の会話内で認知症施設の質問等に対応している。(コロナにて推進会議保留中)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行われ、ご家族の他、地域関係者や市議員、消防署、人権擁護委員、民生委員の方々が出席されている。命のボトル設置等の成果がある。(コロナにて推進会議保留中)	運営推進会議については、施設長の方針で、中津川市の感染者数が10人を切ったら、規制を緩和するとのこと、現在は中止している。	運営推進会議を対面で行うのは困難な状況である。今後の地域との関係継続や運営状況を発信する為にも、書面開催とし、会議構成委員に文書で活動状況を報告したり、意見を求める等の工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月毎にある介護相談員の訪問、運営推進会議へ福岡総合事務所担当者が参加して下さる等、連携を取っている。またグループホーム部会でも行政担当者の参加がある。(相談員はコロナにて保留中)	グループホーム部会に市の担当者も参加し、コロナ感染症対策について連携を図り対応している。補助金を活用し、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、大型の空気清浄機を導入している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の身体拘束マニュアルに従い、運営推進会議やケアカンファレンス等で勉強している。現在の所、身体拘束をしないケアが出来ている。	身体拘束等廃止委員会は職員の学習会と一体的に行われている。今後は、委員会の構成メンバーを決め、「委員会」として、議題を決めて話し合いながら、学習会の記録も整備していく予定としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアカンファレンス、ネットによる勉強の施行し、知識、意識の向上に努めている。日々の言葉遣いにも気を付けている。当然身体拘束はありません。		

岐阜県 グループホームほのぼの2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の1人に成年後見制度利用者がみえる。必要時相談、連絡を管理者窓口にて行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、利用者の疑問点等を解決しながら行っている。改定の場合は事前に文書を作成し、了承を得てから進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、訪問、電話等の時の提案、相談に対応している。	LINEでの対応を実施している。利用者の様子を動画で送り、意見や希望を聞いている。新規の利用者についてはホームでの様子を頻回に伝えている。誕生日や行事の写真を家族に送ったり、玄関や窓越しでの面会も行っている。	現在、面会制限も止むを得ない状況である。家族に利用者の写真を送付する際に、担当職員からコメントを付けるなど、家族の安心と、更なる信頼関係づくりの工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス、日々の質問等にて意見交換を行い、改善等行っている。要望を言える環境を心掛けている。個人的にはラインにて、希望、要望意見を受けている。	職員に陽性者や濃厚接触者が出た際には、管理者が状況把握に努めながら、職員間の協力で乗り越え、新たな連帯感が生まれている。また、現状を考慮し、研修はリモートでの受講を奨励している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望を可能な範囲で聞く事や、体調の相談、設備の見直しを行い働きやすい工夫をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ渦ではなかなか難しいが、研修への参加、施設内勉強会と、各自ネット学習が出来るような体制をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔月開催のグループホーム部会にて交流している。最近では毎年、職員の意見交換会が開催される。また毎月開催のケアマネ部会でも幅広い交流が出来ている。コロナ渦にて、保留中		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本理念に添った対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望、不安、疑問等に耳を傾け、また協力をお願いしながら安心して頂けるよう努めている。どんな事でも相談して頂くよう伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	15)、16)に同じ		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援、尊厳の保持のもと、対応している。(利用者様に役割日々の暮らしの中に見つけていただけるように対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問(シーツ交換、散髪、家族希望)、外出、受診など、可能な範囲でご家族の協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナにて保留中	馴染みの人との面会も中止となっている。利用者の希望を受け、行きつけだった理髪店の訪問理容が実現している。毎週火曜日を「ドライブの日」とし、馴染みの場所や利用者の家の周辺を回っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの関係をみながら、席の配置替えなど行っている。またレクリエーションで楽しむように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽に相談等をして頂いても良い事をお伝えし、出来る限りの対応が出来るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人と向き合い、その人を知り、なるべく希望に添うよう心掛けている。	契約時のアセスメントを参考に、日常会話の中で利用者の思いや意向を把握している。帰宅願望の人には、何か役割を持ってもらい、その人らしい生活が送れるよう支援している。主に食事のリクエストが多く、できる範囲で応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの背景を考慮し、可能なことは取り入れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務で携わると共にカンファレンス、連絡帳、介護記録などで一人一人把握し、対応に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の利用者様の暮らし、それに伴う変化を見ながら、月1回のケースカンファレンスを行い、関係者、家族、本人と話し合い作成している。また定期的に計画の見直しを行っている。	担当者会議に家族の参加を促す計画は、コロナ禍で先送りとなっているが、状況を見ながら取り組むとしている。介護記録には計画内容もファイリングされており、常に意識しながら支援している。今後は、援助内容に優先順位をつけ、実践の強化につなげる予定としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケア、気づき等を介護記録に記入し、連絡ノートでの職員同士で情報の共有。その後の介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々、その人に合ったケアサービスを出る限り行えるよう心掛けている。		

岐阜県 グループホームほのぼの2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各種ボランティア、五感体操等が定着、月一の囲碁ボランティア、本人が心身の力を発揮し楽しむ支援になっている。(現在コロナにて保留中)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科については本人と家族の同意の上、協力医をかかりつけ医としている。他科については、希望する医療機関に家族同伴の受診とし、日頃の様子を伝えると共に、受診結果報告を受け連携を図っている。	かかりつけ医が選択できることを説明し、本人・家族の同意を得て、協力医をかかりつけ医としている。歯科の往診もあり口腔ケアも万全である。専門医へは家族同伴で受診している。代表は薬剤師、管理者とケアマネジャーが看護師であることから、協力医と連携を図りながら、服薬コントロールや健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師で、24時間オンコール状態で対応出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	中津川市共通の情報提供書や、事業所のサマリーを作成し渡している。また、入院後の連絡もケースワーカーと取り合う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の支援については、医療機関と家族の協力等、取り組んでいる。看護師による点滴も必要時可能。入居時に本人、および家族に事業所の方針を伝え、確認をとっており、さらに状態に応じて意向を聞き直し、対応方針の共有を図りながら支援している。(同意書を作成)	看取り指針があり、特別な医療行為がない自然な形で看取り支援をしている。2名の看護師職員が常駐しており、点滴等の支援にも対応している。終末期には家族の面会も可能とし、コロナ禍での看取り支援も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の防災訓練に参加し、地域の方と共に応急手当、AED使用講習に参加している。定期的に救命講習を行っている。(コロナにて保留中)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月2回の自主避難訓練および消防署立会いの訓練にも利用者が参加し、有事の際には速やかに対応出来る体制が整っている。また、災害発生時必要な備蓄品も準備が出来ている。	非常事態に職員が素早く行動できるよう、月2回という頻繁な避難訓練を行っている。特に夜間帯を想定し、いち早く駆け付けられる職員も決めている。消防署からは、事業所の構造に適した具体的な避難方法について、助言を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自立支援、尊厳の保持のもと対応し、職員同士も言葉遣い等に注意している。	職員は、常に利用者一人ひとりを尊重した声かけ、正しい言葉遣いでの対応を心掛けている。代表は職員が不適切な態度や言葉を発しているのを見聞きした時は、その場で指導している。また、職員が自らのケアを振り返ることができる「チェックシート」の活用を検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活にて利用者様と多く会話をする事を心掛け、その人に合わせた声掛けや、本人の言葉を引き出す努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に合わせた声掛け、言葉に耳を傾ける。生活の流れの中で、無理無く、安全な範囲で自由にしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者、ご家族の希望に添えるように対応している。化粧品を希望される方等に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理ない程度に声掛けし、食事の配膳、片付け等をしている。	開設以来、地元の旬の食材を活用しながら利用者の希望に沿って、3食手作りで提供してきたが、人手不足もあり、調理専属の職員が休みの日は湯煎食を活用して乗り切っている。食材は地元のフードセンターの配慮で、食べやすく処理された物を購入している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食の食事と2回のおやつを基本に、摂取状況をみながら、水分摂取の味の工夫、食事形態の工夫、栄養ゼリーの活用。必要時のチェック表の活用をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいははじめ、歯磨きをしていただき、義歯の方はポリデント消毒を使用している。		

岐阜県 グループホームほのぼの2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄習慣を把握し、本人の様子を見ながらトイレ誘導を行っている。また利用者の自尊心に配慮した対応を心掛けている。	個々の排泄パターンを把握し、声掛けと誘導でトイレでの排泄を支援している。男性専用便器がないので、慣れるまで根気よく対応している。自立の人も含めて、使用後の後始末を確認している。夜間は安眠に配慮し、夜用の排泄用品を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事を心掛け、可能な限り水分摂取や散歩(歩行訓練)を行っている。必要なら、提携医に相談し弱い緩下薬等を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者自身で出来る事はして頂き、本人の気持ちや誇りを大切に支援をしている。なるべくゆったり入浴していただけるようにしている。入浴不可時は清拭施行。汚染時、発汗の季節都度シャワー浴等施行。	入浴は利用者の状態に合わせて介助し、その人のペースで支援している。入浴拒否の人には気分転換を図ったり、曜日を変更して対応している。同性介助の希望者はないが、利用者それぞれの思いに配慮しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールに大きなソファを設置し、いつでもくつろげる空間を作っている。入床前は各自のベットを整える。温度管理。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者を決めて、必ず確薬している。チェック表の使用。変化があれば、服用前に薬剤師、看護師に指示を仰ぐ。薬のお薬説明書がいつでも閲覧出来るようにしている。		
48	※	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人が得意としている事や、趣味も考慮しながら生活している。掃除道具、ごみ集め、洗濯伸ばし、畳み等役割がほぼ決まっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期には玄関先で歌を歌う等、外気に触れる機会を作っている。また週に1度はドライブで気分転換を図っている。コロナ渦では、利用者様の外出は極力少なくしている。	毎週火曜日を「ドライブの日」とし、専属ドライバーが利用者の希望する場所や、季節感のあるスポットへ出かけている。天気の良い日は、玄関前のベンチで外気浴をしている。コロナ禍で外出の機会が減ったが、毎日、ホールでの体操を継続している。	

岐阜県 グループホームほのぼの2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、なくなっても良いということを家人、本人了承の上、少ない金額を持ってもらう。希望時には、一緒に買い物に行く。一人のみ自己管理可能な方がみえ、毎月決まった金額を渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家人の了承をとり、協力してもらえるようにたのんで、希望時対応している。家族より電話の希望があれば、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	履き出しの窓が北側全体にあり、風通しの良い作りで、周囲は自然に囲まれ、季節によって木々の色や、花がみられる。利用者が心地良くなるよう、歌謡曲を流したりする。豆炭炬燵の設置もしている。	ホール中央に直径60cmを超す大黒柱があり、天井にはシーリングファンがある。採光用の窓や大きな掃き出し窓もあり、換気をしながら室温調整を行っている。補助金を活用して、大型の空気清浄機も設置している。食卓テーブルや椅子、キッチンの配膳台等、重厚な木材が使われた落ち着いた雰囲気のある環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに大きなソファを設置し、いつでもくつろげる空間を作っている。履き出しの窓が北側にあり、建物の構造上風通しがよい。利用者様の気の合った方同士が座ったり、各々が好きな場所で過ごせる様にしている。自室で過ごす事も出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物の持ち込みを説明し、可能であれば持参してもらう。家族の写真を飾る等。(湯呑、箸、茶わん等。)	居室には作り付けのクローゼット、洗面台、タンス等の設置があり、室内は整理整頓されている。自分の手作り作品を飾る人、アートフラワー等を壁に飾る人などもあり、自分らしく過ごせる居室作りを行っている。希望があれば、家族が宿泊することも可能となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、出来ない事シートの活用、本人に無理なく自立に少しでも近づけるように声掛け、介助を行っている。		